



学校だより

学校教育目標

ふるさとの魅力を発見・発信し、次代を生き抜く児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第5号

令和2年6月3日発行

文責 校長 宮地 浩幸

ほんわかタイム

人権・同和教育の視点から本校では、定期的に「ほんわかタイム」という集会を設定しています。5月26日（火）の朝の時間に第1回目の「ほんわかタイム」を実施しました。話の内容は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みに対して起こっている差別や嫌がらせとも思える行為についてです。子ども達に自分ごととしてとらえて欲しくて話をしました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止に対して、全国緊急事態宣言が発出され、外出の自粛の要請がありました。その中で、新型コロナウイルス感染患者の介護や医療に従事されている本人や家族に関して、また物流に従事する人たちにに関する偏見やいじめとも思える行為が世間でかなり問題になりました。新型コロナウイルス感染の危険性を顧みず身を犠牲にして、私たちの暮らしを守ろうとしている人たちに対して、感謝こそあれ不愉快な気持ちにさせる行為など決してあってはならないことです。もちろん、この背景には見えないものへの恐怖があり、自己防衛の本能が働いていることもわかります。しかし、互いに支え合い社会が構成されている仕組みを子ども達にも深く考えてもらい、どのような行動をとるべきなのか自分の心と向かい合ってもらいたいと思いました。今回、校長が子ども達に話をしたわけですが、この新型コロナウイルス感染症拡大防止に関しての取り組みにおける偏見や差別とも思える行動への危機感は教育行政の方がかなり重視をしており、子ども達へ発せられたメッセージを紹介しました。その内容は次の通りです。

外出制限の中で特に頑張っている人たち



みなさんが絶対にしてはいけないことがあります。それは、新型コロナウイルスなどの感染症に罹ってしまった人やそのご家族の心を傷つけるようなことを言ったり、差別したりすることです。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けて、懸命に働いているご家族をもつみなさんの仲間を傷つけるような言動です。

不安な気持ちを抱えている人には、やさしく声をかけ、支えてあげてください。もし、気になる様子を見かけたら、先生や大人の人に伝えてください。

相手の立場に立って、思いやりの心をもって行動しましょう。もし、傷つけられてしまったら、必ず先生や信頼できる大人に相談してください。



子ども達は、真剣に考えてくれました。他人のことを優しく思いやることができる子ども達が育っていると確信しました。

イノシシの被害

近ごろ学校敷地内にイノシシの入った跡が見られたり、南側の斜面が荒らされていたりすることが頻繁に起こりました。これは明らかにイノシシが学校周辺にいるという証拠です。島内にたくさんのイノシシがいることは知っていましたが、学校に差し迫ったものがあれば、子ども達の安全が気になるところです。そのことを区長さんや民生委員さんに相談したところすぐに、学校菜園のそばに、捕獲のためのわなを仕掛けていただきました（現在子ども達の学校菜園への立ち入りを禁止して安全を確保しています）。その対応の早さに島民の方々のご支援と子ども達への見守りを強く感じ感謝するばかりです。イノシシのわなを設置するのをはじめていましたが、とても大きくびっくりしました。

ところで、加唐島には元来イノシシはいなかったと聞きました。どこからか泳いで海を渡ってきたようです。それを考えるとイノシシの力強さにも驚きです。一般的に島のような閉鎖的な自然の中では別の生物が侵入してくればその生態系が崩れることが良くあります。イノシシの流入により島の生態系に少なからず影響を与えていることは間違いのないと思います。それでも、繁殖をし続けるイノシシと共存していかなければならないことも事実です。イノシシと遭遇した時には、刺激をしないように対処しなければなりません。子ども達の安全を守るうえで、イノシシへの対応は島で生活する上でのスキルとなっています。逆に言えば、このようなことはあまり陸の方では経験できませんので、ある意味生きる力の獲得になることを期待したいものです。



昼休みもみんな一緒

本校の6名の子ども達は、本当に仲がいいと思います。毎日校門に立って、子ども達を迎えますが、その時、最後に登校した子どもと一緒に玄関へ向かうと先に登校していた子ども達がその子を温かく迎えてくれます。これが1日の始まりであり、子ども達同士の健康管理のようにも思えます。そして、それぞれのクラスで1日がスタートする訳ですが、小学校は45分授業、中学校は50分授業なので、本校では、チャイムは一切鳴りません。授業初めの時間帯を揃えますが、小学生が5分早く終わることになります。時間はみんなが自分で管理します。そして、4時間目が終わるとすぐに給食の準備にかかります。5分早く授業を終えた小学生を中心に給食準備がなされます。この辺りも中学生と小学生の連携が上手くとれていると感じます。

さらに、昼休みになれば、中学生も小学生もそして先生方も加わって一緒に遊ぶ姿が見られます。いろいろなことをしますが、先日はバスケットボールをする姿を見ました。すると上級生が下級生を気遣ってくれます。小学校低学年の男子児童にボールが渡ると、みんな道を空けて、その子がシュートを打つことの邪魔をしません。異年齢での集団競技ですが独自のルールがそこには存在しているようです。極小人数の学校ですが、創意工夫と互いに思いやる気持ちが、この学校だから育っているのだと感じます。

校内に新入生の記念樹を植えました。

毎年、苗木はさが緑の基金よりいただいています。

ウバメガシという植物を植えました。新1年生の成長とともにこの樹も大きくなります。卒業の時期にはどのくらいの大きさになるのか楽しみです。

